

週日の説教

金 大烈 神父 2009年3月31日(火)

《理解されるより、理解できるように祈りましょう》

今日は、二つのことについて話をします。

一つめです。皆様は、人に理解してもらえなかったらどのような気持ちになりますか。十分に理解してもらえと思ったのに相手が理解してくれなかったらどのような気持ちになるでしょうか。寂しくなりますね。腹も立ちますね。イエス様は、親からも理解してもらえなかったのです。妊娠される前、マリア様も理解できなかったのです。そして死ぬときも、あなたに命をかけてついて行きます、と口にした弟子達でさえ全部逃げてしまいました。結局、彼らは、復活の体験ができてから "本当だった" とイエス様のみ言葉を振り返り、思い出し、理解することができたのです。しかし、イエス様は、一度も文句を言ったことはありません。ただ、今日のような話くらいでしょう。「わたしは上のものに属している。あなたたちは下のものに属している。」だから理解が出来ない、と。結局、生き方、死に方によって証明する方法しかないことをイエス様ははっきり示されたのです。皆様、私たちはどうすればよいのでしょうか。聖フランシスコは、「理解を求めることより理解する力をください。」と言いました。人間の関わりは、夫婦でさえ、お互いに完璧に理解することはできないと思います。しかし、私たちが求めなければならない願いは、"相手を理解する心をお許してください。なぜその人が私を裁いているのか、なぜその人が私に願っているのか、なぜその人はそのような振る舞いを見せなければならなかったのか、それを理解する心をお赦してください。" と祈らなければならないのが私たちの立場ではないでしょうか。そのように祈っても私たちは、相手を100パーセント理解することはできません。寂しくなると言いましたね。この世の中は、そういう意味でも寂しい世の中です。いくら頑張っても相手を理解することはできないかもしれません。私はあの人を知っている、と言いつつもその人が何を望んでいるのか、何を悲しんでいるのか、何で痛んでいるのかわからずにその人を分かっています、と言っているのが大体私たちの姿ではないでしょうか。

皆様、相手に理解してもらおうと思うのは諦めてもよいと思います。それより、理解できなくて辛い気持ちから開放されるように、「相手を理解できる力をください」と願ってください。それが幸せを感じやすい態度ではないかと思えます。皆様が持っているいろいろな憎しみも、理解できなかったので悔しくて生じるのです。皆様、幸せになりたいでしょう。そうしたら、憎むその人を理解できる力をください、と祈りましょう。理解できればその人のために祈ることもできるでしょう。それは、私たちに命がある限り、最期までの宿題になると思えます。

次の話です。私たちが頭で信じることと言えば結局、証明されたこと、証拠があること、目にはっきり見えること、です。しかし、信仰というものは、見えるはずがありません。触れません。接することさえ難しいです。2000年前に生まれて、復活されたと言われているイエス様を私たちは信じています。子どもが無条件に自分の親だと信じるように、私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。でもイエス様を見た人はいません。会った人もいません。結局、信仰というものは目に見える、手で触れるものではありません。幼い子ども達が、疑いなしに自分の父親だ、母親だ、と信じるようなことです。私たちが今信じているイエス・キリストによって示された神様、その神様についての教えをよく習いましたね。もし、それが詐欺であったら、嘘であったら、今まで2000年間続いて来ることはできなかったでしょう。たくさんの殉教者が自分達の命をかけて守ろうとした、この信仰を純粋な心で信じましょう。それができなければ、私たちは、頭では何かによって満たされてもいつも霊的な味を分けることができません。

皆様、神様は愛であることを、その愛はいつも私たちに向いているのを固く信じる心が信仰ではないかと思えます。

ありがとうございました。